

受診控え 全世代の2割

2倍化の75歳以上顕著

保団連調査 医療費負担重く

経済的理由で医療機関の受診を控えた人は、全世代の約2割に及んだ。全国保険医団体連合会（保団連、住江義久会長）が行った調査で明らかになりました。75歳以上で医療費窓口負担が2割に上った人の16・8%に及ぶなど、重い医療費が医療へのアクセスを困難にしている実態が浮かび上がります。

調査は、保団連が昨年10月から、全国の会員医療機関や保団連本部ホームページなどで6397人の患者から回答を得ました。

全世代で「過去半年以内に経済的理由で受診を控えたことがある」との回答は19%になりました。尋ねしめられた人（回答者435人）のうち、「過去半年にしている」と答弁しました。実際には受診

3%だったものの、「貯金を切り崩した」と答えたのは16・8%でした。

一方で、「受診回数を減らした」が17・3%となりました。保団連は、全世代を通して受診控えや生活の苦しさがみられるとしています。

また、75歳以上で医療費が2割負担になつた人は国会で「必要な受診の抑制を招かないよう

抑制が発生している状況が浮き彫りになりました。

保団連は、受診の手

・0%）などの回答がありました。

保団連は、受診回数を減らした（14・9%）、「食費なし生活費を削って受診」（12・0%）などの回答がありました。

一方で、「受診回

調査での自由記述欄に寄せられた声		
負担割合	年齢	
2割	78歳	2割負担になったので、来年からは受診を減らそうと思っている。軍事費に回すな
1割	77歳	諸物価が次々と高騰し国民年金者にとって、生活が苦しいばかりです。年とともに体調も悪くなるばかり…ガマンしてそれでも痛みが勝てば医者に行きます
3割	32歳	定期的に通うつもりだったが、窓口負担と薬局の薬代が毎回負担になつたので、症状が完全によくなる前に受診をやめてしまった
	38歳	収入が少ないので、医療費の負担が増えるのは死活問題だと思います。今後現状が続けば、もっと受診を控える事も増えると思います

が経済的理由から受診を控えたと回答しています。

保団連は、①75歳以上の医療費窓口負担を、緊急に一部に戻すます。

②後期高齢者の保険料引き上げや介護の利用者負担2割の対象拡大などの医療・介護の負担をしない③全世代の医療・介護の負担を大幅に軽減することを求めています。

控えめ受診のために生活費を削っている状況だと分析。窓口負担2割の人のうち約3割が「貯金なし」を切り崩した」と回答しており、物価・光熱費の高騰や岸田自公政権による年金削減、医療・介護の保険料引き上げ、窓口負担の影響が考えられると指摘します。

75歳以上で医療費1割負担の人（回答者826人）でも12・7%が経済的理由から受診を控えたと回答しています。

保団連は、①75歳以上の医療費窓口負担を、緊急に一部に戻す